

思考の転換が求められる日本株投資



チーフ・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 大きな変化が起こり始めている日本

日経平均株価は最高値を更新後、足元では海外株に比べ出遅れる動きとなっており、「やはり日本株の上昇は今回も一時的なのか」という声を最近よく耳にします。本当にそうなのでしょうか。

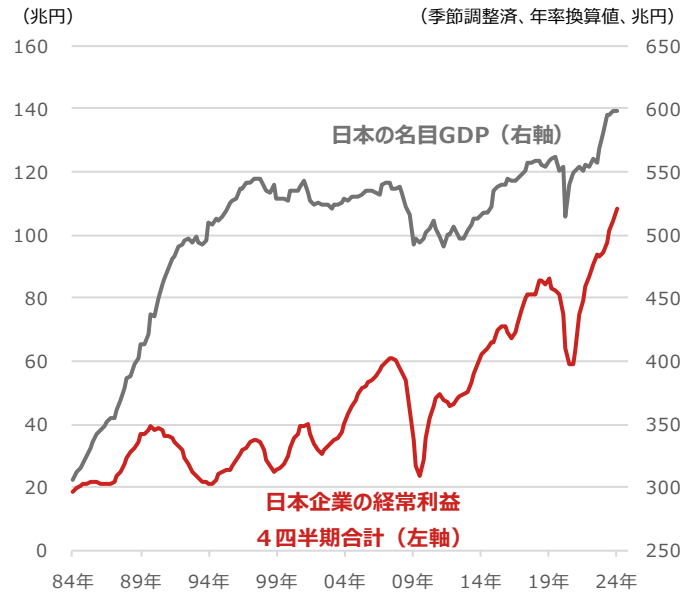
結論から言うと、答えは「ノー」だと筆者はみています。デフレからインフレへの転換を背景に、日本の名目GDPは過去最高を更新し（右上図）、国内における半導体投資ラッシュ、インバウンド需要の急増など、経済構造は様変わりしました。企業面でも日本の企業収益は最高益となっており（同図）、企業改革の進展期待も高まっています。また、家計の金融資産は拡大を続けているほか、構造的な人手不足から賃金が持続的に上昇しやすい環境が整うなど、家計を取り巻く環境も好転しつつあり、現在の日本では、バブル崩壊後みられなかった大きな変化が起こり始めているといえます。

ポイント② 日本株投資への思考を転換する局面

デフレで苦しんだ日本がようやく長いトンネルから抜け出そうとしている動きは、資産価格にも如実に表れています。経済、企業、家計の構造転換期待から、日経平均株価は3月に一時初めて4万円の大台に乗せました。また、24年の公示地価では、全用途の全国平均は前年比で2.3%上昇し、地価の底入れムードが高まっているなど、日本では資産デフレ解消の動きが目立ち始めています（右下図）。

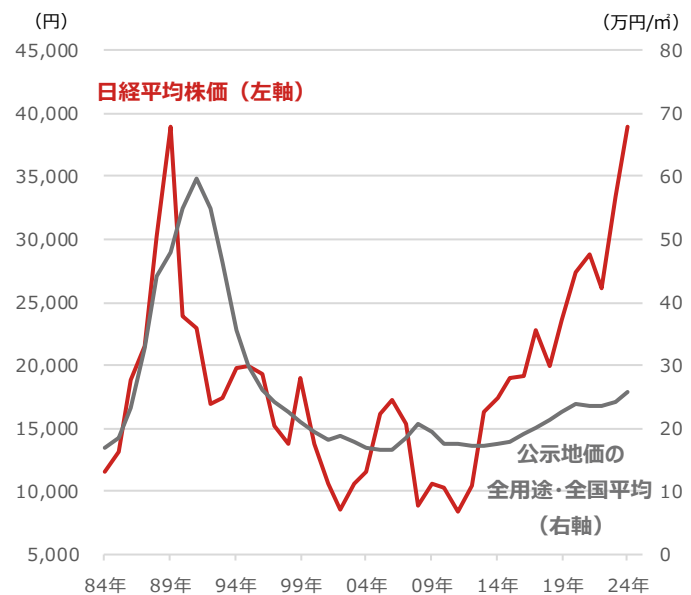
日本は大転換点を迎えているにもかかわらず、日本の家計の金融資産は未だに現預金比率が高い状態にあり、家計のデフレマインドは根強いといえます。こうした今こそ、これまでの思考を転換し、日本株投資を通じて日本の変化を応援することが求められるといえるのではないのでしょうか。

日本企業の経常利益4四半期合計と日本の名目GDP（国内総生産）



期間：1984年1-3月期～2024年1-3月期、四半期
・日本企業の経常利益は法人企業統計のデータを用いた（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

日経平均株価と公示地価の全用途・全国平均



期間：（日経平均株価）1984年末～2024年6月3日、年次
（公示地価の全用途・全国平均）1984年～2024年、年次
（出所）Bloomberg、国土交通省（<https://www.mlit.go.jp/>）のデータより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

野村アセットマネジメントからのお知らせ

■ ご注意

下記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

以下の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

2024年6月現在

ご購入時手数料 《上限3.85%（税込み）》	投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。 投資信託によっては、換金時（および償還時）に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。
運用管理費用（信託報酬） 《上限2.222%（税込み）》	投資家はその投資信託を保有する期間に応じてかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 * 一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 * ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。
信託財産留保額 《上限0.5%》	投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。
その他の費用	上記の他に、「組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

当資料で使用した指数について

●「日経平均株価（日経225）」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。